

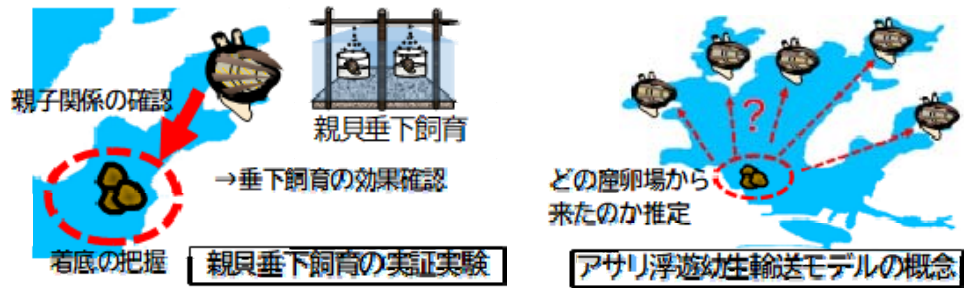
# 浜名湖のアサリ資源増加に向けた 実証実験と増殖手法の開発

(予算区分 県費 研究期間 2025～2027 年度)

担当：水産・海洋技術研究所浜名湖分場 鈴木朋和・上原陽平

【研究の背景とねらい】

- ・ 浜名湖のアサリ年間漁獲量は 2～6 千トンで推移していましたが、漁業者が自ら漁獲制限を行っているにもかかわらず令和 6 年は 1 トン未満と壊滅的な状況で、アサリ資源の減少が地域経済に大きく影響を与えています。
- ・ 令和 3～5 年度に実施した新成長戦略研究では、親アサリを餌の豊富な場所で成熟させて産卵数の増加を促すことができることが明らかになりました。
- ・ 本研究では、餌の豊富な庄内湾の環境を活かし、①垂下飼育により産卵数を増やし、その卵からふ化した幼生の着底場所を遺伝子を用いて特定する手法の開発や水温等の環境に応じた最適な産卵時期の解明、②シミュレーションモデルによる卵・浮遊幼生の移動経路と稚貝の着底場所の推定を行います。
- ・ これらの成果により、垂下飼育による産卵数の増加と親貝の食害防止、被覆網による稚貝、親貝の食害防止等の対策を漁業関係者と協働して実施することで資源回復を目指します。



【期待される効果】

- ・ 科学的な根拠に基づいた産卵親貝、着底稚貝の保護策についてアサリ漁業関係者に提示し、研究・普及・行政が連携して実行することで、資源回復の実効性を確保し、漁業関係者が安定した収入を得ることが可能となります。

【年次計画】

| 細目課題                           | 2025<br>年度 | 2026<br>年度 | 2027<br>年度 | 研究内容                                                                |
|--------------------------------|------------|------------|------------|---------------------------------------------------------------------|
| 垂下飼育による産卵数増加と遺伝子を用いた効果検証(実証実験) | ○          | ○          | ○          | ・ 庄内湾での親貝垂下飼育<br>・ 遺伝子を用いた親子関係の特定手法の開発<br>・ 親貝・稚貝の遺伝子把握             |
| アサリ浮遊幼生輸送モデルによる産卵適地の特定         | ○          | ○          | ○          | ・ アサリ浮遊幼生輸送モデルの作成<br>・ モデル精度向上のための水温等の連続観測体制構築<br>・ 実証実験結果とモデルの比較検証 |

(作成 2025 年 4 月)